

「子ども司書」受講生の皆さんへ

作家・評論家 柳田 邦男

矢祭町の小学生の皆さん、こんにちは。

矢祭町は、今、大変ですね。

東日本大震災の地震の揺れは、さぞ怖かったことと推察します。そればかりでなく、原発の事故によって放射能の危険も続いているのですから、思いつき外であそぶこともできず、不安の中にあるのではないのでしょうか。

でも、そんな中にあっても、図書館司書の仕事を学ぼうという「子ども司書講座」の受講を希望する小学生が、十六人もいると聴いて、うれしくなりました。

司書講座で、皆さんは何を学ぼうと考えているのでしょうか。図書館や図書室の、本の分類や整理の仕方や、貸し出し方などを覚えるのが、講座の目的だと考えているのでしょうか。

確かに、それらは図書館でも図書室でも、大事な仕事です。しかし、小学生の皆さんにとつて、もっと大事なことは、本が好きになることではないのでしょうか。

昔からよく語られる言葉に、「子どものころに本好きになるのは、一生を支える財産をつくるに等しい」というのがあります。本当にそのとおりだと思います。私も、小学生のころ、いろいろな本を読みました。名探偵シャーロック・ホームズの推理小説や世界の名作物語や、落語の本や天文学の本など、どれも夢中になって読みました。どのような分野の本でも、楽しいものでした。そのおかげで、授業で学んだことより、ずっと多くのこと——社会の問題や科学のことや、何よりも人間の生き方や心の絆のことなどを、いつの間にか学ぶことができたのです。今、私は作家となつて、様々な本を書いています。そのような人生を選んだはじまりは、小学生時代に本好きになつたことだと思っています。

皆さんは、これから司書の仕事について、講座で学ぶとき、ただ本の分類の仕方などを形だけ覚えるのではなく、具体的に手にした本の中身もしっかりと読んで、その本がなぜ分類の中のあるグループに入るのかを考えるようにしてみよう。そうすると、世の中にはこんな本もあるのかといったことがどんどんわかってきて、考える力がついたり、大人になつてからも幅広く本を読むようになったりすると思います。

これから一年間、皆さんがどのように成長するか、楽しみにしています。さあ、今日からスタートです。頑張ってください。

二〇一一年五月十四日